

はじめに（目的と調査）

（調査1）島しょ部各地の地域調査

- ・ 呉市島しょ部における人口の変化、高齢化状況などを統計資料により把握、また、住宅地図、住宅基本台帳等により空き家の分布状況を把握する。
 - ・ 空き家所有者及び不動産業者等へのヒアリング調査により、空き家が取引されない要因を明らかにする。
- 【目的1】島しょ部の実情を把握し、空き家が取引されない要因を明らかにする。

（調査2）空き家所有者に対するアンケート調査

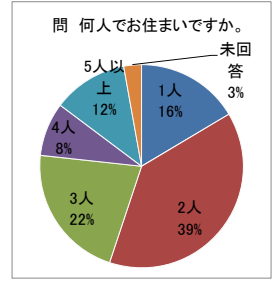
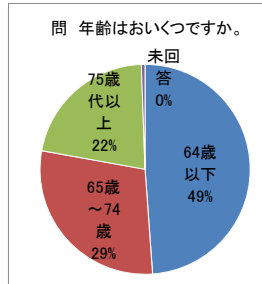
- ・ 空き家の現況（空き家期間、老朽度、インフラの状況等）について把握する。
 - ・ 空き家を提供しない理由（心理的要因、物的要因、環境的要因）について把握する。
 - ・ 「空き家バンク」の認知度、「空き家バンク」への掲載の意思について把握する。
- 【目的2】空き家の現況および所有者の「空き家バンク」に対する認知度や掲載に対する意識を把握する。

（分析）（調査1）（調査2）で得られた知見を分析

- ・ 「空き家バンク」の問題点、および新たな方策について検討を行う。
- 【目的4】呉市の島しょ部における「空き家バンク」の充実のための方策を提案する。

1. アンケート回答者の属性

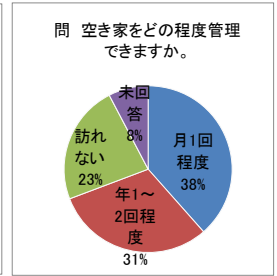
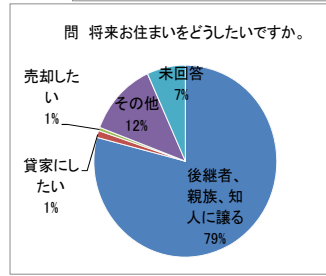
- 回答者の半数は、75歳以上の方でした。また、倉橋町に40年以上住まれています。
- 二人世帯が最も多く、一人暮らしの世帯は全体の1/6でした。
- 一人暮らしが最も多いのは、75歳以上の方でした。
- ◎ 高齢者の一人暮らしの世帯が多くなっています。



将来的にはこれらの住まいが空き家になる可能性があります。

2. 住まいに対する将来の意向

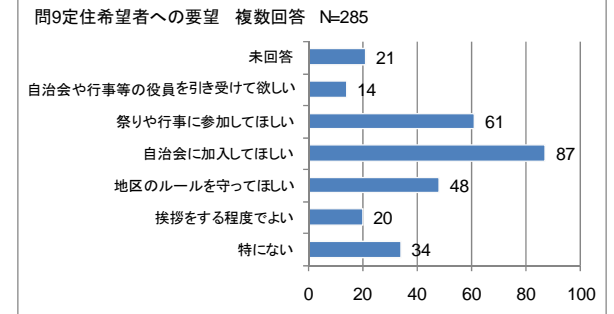
- 8割の方が、将来は後継者に譲ると答えています。
- 空き家になった家は、4割の方が「月1回程度」は管理できると答えています。2割の方は「訪れない」と答えています。
- ◎ 近い将来は住まいを後継者に譲り、誰かが住む予定の世帯がほとんどです。
- ◎ 空き家になった場合は月1回もしくは、年1~2回程度の管理となるようです。



空き家になったときの管理の方法を検討する必要があります。

3. 定住希望者への要望や協力

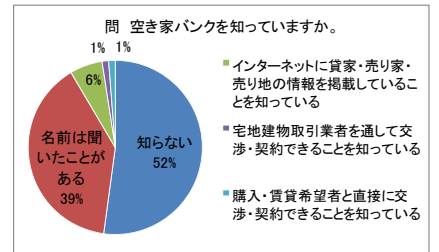
- 7割の方が定住希望者に「参加してほしい」と思っています。
- 半数の方が、「自治会に加入してほしい」と思っています。
- ◎ 多くの方が、定住希望者に自治会加入、祭りや行事への参加を希望しています。



定住希望者に住民の意向を伝えるシステム作りが必要です。

4. 『呉市空き家バンク』の認知度

- 半数の方が呉市空き家バンクを「知らない」と答えています。
- 空き家バンクの認知度は低く、およそ4割では知っているが、名前程度であることがわかりました。
- ◎ 「呉市空き家バンク」の認知度が大変低いです。
- ◎ 「75歳以上」の後期高齢者がもっとも「呉市空き家バンク」を知らないことがわかりました。

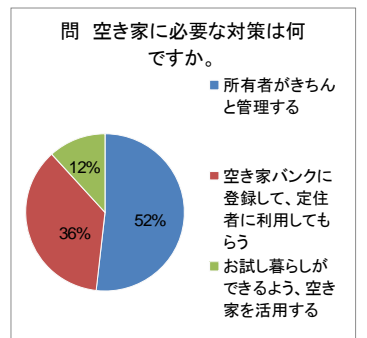
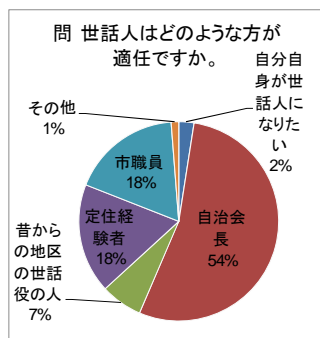


住民の皆さんや後継者の方にも空き家バンクを知ってもらう機会を設ける必要があります。

5. 空き家対策について

- 5割の方が、世話人には「自治会長」が適していると考えています。
- 2割の方が、「定住経験者」、「市職員」が適していると考えています。

自治会長を核として、定住経験者や市職員、そして自ら進んで世話人を引き受ける人らのチームでの対応が適していると考えられます。



- 5割の方が空き家を「所有者がきちんと管理する」ことを望んでいます。
- 「空き家バンクに登録して、定住者に利用してもらう」と答えた方はおよそ4割の方です。

空き家のままにしておくよりも、定住者を受け入れ、空き家バンクを活性化する必要があります。

最後に

- ★ 今後は、空き家バンクについて住民の方々にもっと知っていただく必要があります。
- ★ 定住希望者の要望を細かく聞き、現在ある空き家とのマッチングに役立てることが大切です。